

15分で学ぶ！障がい者支援の基礎

精神障がい支援の考え方・よりそい方



講師： 森山拓也
(城西国際大学福祉総合学部 准教授／SST普及協会 認定講師)



第一回 「 代表的な疾病について 」



講義のポイント

今回の講義のポイントは・・・

- 精神疾患の有病率、5大疾病について
- 統合失調症・気分感情障がい・不安障がい・発達障がいの診断基準について
- 精神疾患の診断とは

・・・となっています。

精神疾患は

- 世界精神保健調査では、我が国の精神障がいへ罹患する生涯有病率が22.9%（約5人に1人）であり、精神疾患は誰でも罹患しうることが報告されている。
- 厚労省が実施した2008年の患者調査によると、**精神疾患**の患者数は**約323万人**。4大疾病で最も患者数が多い**糖尿病**（約237万人）を大きく上回り、**がん**（約152万人）の2倍に上る。⇒こうした状況を踏まえて、厚労省の方針として2013年度から医療計画で5大疾病に盛り込むこととなった。

統合失調症

- 幻覚・妄想・話のまとまらなさ・行動のまとまらなさ・陰性症状のうち2つ以上の症状が半年以上続いたときに診断される。
- 「物事の考えをつなげる働きが障がいされている」
- 発病率は約0.75%
- およそ100人に1人が罹患する。
- 継続的な薬物療法と心理社会的支援

統合失調症

つづき

- 幻覚：幻聴・幻視・幻嗅・幻触・幻味などがある。
- 幻聴：聞こえてます。
注釈幻聴・対話性幻聴・命令幻聴・思考化声
- 妄想：事実とは異なるが、根拠が少なくても確信している。
被害妄想・関係妄想・注察妄想・被毒妄想など
- チオンピラ（Ciompi & Muller : 1976）の30年の長期予後の調査によると、予後良好群は50%、別の調査では68%が良好群との報告があります。（予後良好とは、家族さえも、もはや病気ではないと認めるほどに回復しているものや、多少の症状は残っているものの、おおむね日常生活に支障をきたさない程度の事をさしています）

気分（感情）障がい

- **うつ病**：生涯有病率➡ 女性10～25%、男性5～12%
気分が落ち込むうつ状態が続く。
- **双極性障がい**：世界の人口の約1%
うつ状態、躁状態が混在する。
- **薬物療法と心理社会的支援**

気分（感情）障がい つづき

- うつ病とは、精神的なエネルギーが極端に低下して、ひどく憂うつな気持ちが続いたり、何をしても楽しいと感じられなくなったりして辛くなっている状態である。
- その辛さを、「**うつ地獄**」と表現した人がいるが、それがこころの中で起こっていて外から見えないだけに、他の人にわかってもらえないというつらさも加わる。
- ①抑うつ気分、もしくは②興味や喜びの著しい喪失のいずれかひとつを含む、③食欲の減退または増加、④睡眠障がい（不眠または睡眠過多）、⑤精神運動の障がい（強い焦燥感・運動の制止）、⑥疲れやすさ・気力の減退、⑦強い罪責感、⑧思考力や集中力の低下、⑨死への思い、の9つの症状のうち5つ以上が、ほぼ毎日、ほぼ1日中存在している必要があるとしている。

不安症群（不安障がい）

不安症群には、過剰な恐怖および不安と、関連する行動の障がいを特徴とする精神疾患が含まれます。

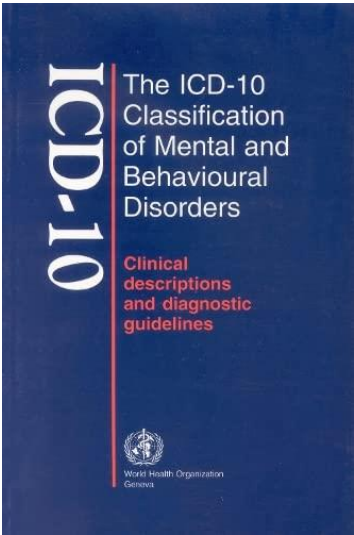
- **パニック症**（きっかけ無く突然のパニック発作を繰り返す）
- **社交不安症**（人と接することに緊張しすぎる）
- **強迫症**（気になってせすにはいられない）
- **ストレス関連障がい**（強い過去のストレスを抱えている）

発達障がい

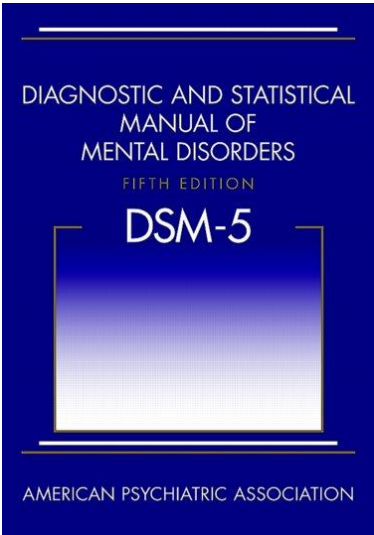
- 脳の機能的な問題が関係して生じる疾患で、日常生活・社会生活・学業・職業上における機能障がいが、発達期にみられる状態をいいます。
- **ICD-10**では発達障がいは、事細かに分けられている。
- 広汎性発達障がいとして、**自閉症、アスペルガー症候群**などが挙げられています。

診断をめぐって（ICDとDSM）

WHO
（世界保健機関）



アメリカ
精神医学会



精神医学の領域において
WHO(世界保健機関)策定
のICD-10は、アメリカ精神
医学会の定めた『精神障害
の診断と統計の手引き』第5
版 (DSM-5) と並び、代表
的な診断基準のひとつとして
使用される。
厚生労働省は統計法に基づ
く統計調査にICD-10を用
いている。

DSM-5(精神障害の診断と統計の手引き第5版)		
	大分類	小分類（代表的な病名）
1	神経発達障がい	知的能力障がい、自閉スペクトラム症、ADHD、学習障がい、チック症など
2	統合失調症スペクトラムおよび他の精神病性障がい	統合失調症など
3	双極性障がいとその関連障がい	双極 I 型障がい、双極 II 型障がいなど
4	うつ病性障がい	うつ病など
5	不安障がい	不安障がい、恐怖症、選択性緘黙、パニック症など
6	強迫性障がいとその関連障がい	強迫症、醜形恐怖など
7	トラウマとストレス関連障がい	PTSD、適応障がいなど
8	解離性障がい	解離性同一症、解離性健忘など
9	身体症状障がい	身体症状症、病氣不安症など

DSM-5(精神障害の診断と統計の手引き第5版)		
	大分類	小分類（代表的な病名）
10	食行動障がいと摂食障がい	摂食障がいなど
11	排泄障がい	遺尿症など
12	睡眠-覚醒障がい	不眠症、ナルコレプシーなど
13	性機能不全	射精不全、勃起障がいなど
14	性の身体違和感	性別違和など
15	破壊的、衝動制御および素行障がい	放火症、窃盗症など
16	物質使用と嗜癖の障がい	アルコール、薬物関連など
17	神経認知障がい	せん妄、認知症など
18	パーソナリティ障がい	パーソナリティ障がいなど
19	性的倒錯	露出障がい、小児性愛障がいなど
20	その他の障がい	

ICD-10(国際疾病分類第10版)		
コード	大分類	小分類（代表的な病名）
F00-F09	症状性を含む器質性精神障がい	認知症、脳損傷による精神障がいなど
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障がい	急性中毒、依存症など
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障がい及び妄想性障がい	統合失調症
F30-F39	気分（感情）障がい	躁病、うつ病、双極性感情障がい（躁うつ病） など
F40-F49	神経症性障がい、ストレス関連障がい及び身体表現性障がい	パニック障がい、強迫症、PTSDなど
F50-F59	生理的障がい及び身体的要因に関連した行動症候群	摂食障がい、産褥期うつなど
F60-F69	成人の人格及び行動の障がい	人格障がい、性同一性障がいなど
F70-F79	知的障がい〈精神遅滞〉	知的障がい
F80-F89	心理的発達の障がい	学習障がい、発達障がいなど
F90-F98	小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障がい	ADHD（注意欠陥多動性障がい） など

診断は、様々な基準がある

- **APA（アメリカ精神医学会）とWHO（世界保健機関）でも前述のように診断名、基準が違います。**
- **世を騒がせた大きな事件の精神鑑定でも、診断名が一致することは少ない。**
- **⇒ 抱えている困難は、一人ひとり違います。**

分かる

病気は部分であってその人すべてではない

- **こころを病むということは、ひと全体が病んでいるわけではありません。そしていつも病んでいるのとも違います。**
- **対処の工夫は何よりも「分かる」ことから始まります。**
- **その人の健康な部分、良いところに注目しましょう。**

締めのひと言

- **診断名にとらわれるのではなく、本人の個別理解・特徴理解が必要です。**
本人のつらさや不安は見えにくいですが、本人の困りごとから見ていきましょう。